

womenwill

男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会用 資料

テクノロジーが男性の家事・育児参画をドライブする

Google Brand Marketing Manager

Women Will Project Lead

山本裕介

2016.12.09

アジア太平洋地域での女性活躍促進の取組み

womenwill

- 情報へのアクセス
- 新しい機会の創出
- ワークスタイル改革



まずはWORKについて





テクノロジーで
働き方を
変えていく

働き方の
カルチャーを
変えていく

#HappyBackToWork

働き方の
カルチャーを
変えていく

"女性が家庭の外でも役割を持つことは大切だと思う。"

71%

"母親になってからも仕事を続ける女性を支援する社会だと思う。"

38%

#HappyBackToWork

#HappyBackToWork では、個人が投稿した、とくに応援を集めたアイデアを、実際により多くの企業・団体様に実践していただくまでを目指す。

ユーザー

アイデアを応援する

Women Will
キャンペーンサイト

アイデアを集める

サポーター企業・団体

アイデアを実践する



#HappyBackToWork



投稿アイデア

サポーター企業

アイデア実践

5,000 件

1,000 社

2,000 例

テクノロジー
で働き方を
変えていく

ワークハードから
ワークスマートへ



2015：未来への働き方コンソーシアム

3社コンソーシアムで得た知見を「未来の働き方プレイブック」として発表。

企業・団体パートナー



未来の働き方 PLAYBOOK

プレイブック

「だれもが画一的に長時間働く」時代から、「柔軟に効率良く働く」時代へ。

このプレイブックは、そんな「未来の働き方」をみんなで考え、実現していくためのスターターガイドです。



<https://www.womenwill.com/japan/playbook>

明日からできる働き方改革の 7つのステップ

- 1. トップのコミットメント** 組織のトップからの強い意志表明で、改革の方向性を示す
- 2. コアメンバーを決定** 取り組みの推進担当者、責任者を決める
- 3. 現場の声を聞く** アンケートなどで定期的に現状を把握し、課題を抽出。話し合いで解決アイデアを集める
- 4. 最初の取り組みを明確に** 課題に優先順位をつけ、最初の一歩となる取り組みを決める
- 5. 全員でトライ** 一部ではなく、必ずチーム全員で、まずは実践してみる
- 6. オープンに共有** 取り組みの途中で気づいたことを共有し、いま一度、みんなの意識を高める
- 7. 効果を検証** 新しい働き方の成果を計り、次につなげる

Meeting Ground Rules

会議グラウンドルール

- 1 Start/end meetings on time**
開始・終了時間を厳守
- 2 Assign a facilitator and a person to take meeting minutes**
ファシリテーターおよび議事録担当者を設定
- 3 Confirm meeting objectives and its goals**
会議目的およびゴールを確認
- 4 Share and recap meeting minutes**
議事録共有と振り返り

2016: 未来の働き方トライアル

「未来の働き方トライアル」では、「未来への働き方コンソーシアム」で得た知見をより多くの企業と共有・実践に移します。有識者監修のもと、セミナーや勉強会を実施しながら、結果・知見を公開、発表していきます。<http://www.womenwill.com/japan/news/?tags=未来の働き方トライアル>



佐藤 博樹 氏

中央大学大学院戦略経営研究科教授
内閣府 男女共同参画会議議員
経産省 ダイバーシティ 100 選委員会委員長



白河 桃子 氏

少子化ジャーナリスト、作家
相模女子大客員教授
一億総活躍国民会議の民間議員



矢島 洋子 氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング
経済・社会政策部首席研究員
兼 女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室室長
中央大学大学院戦略経営研究科客員教授

モデル部署
の決定

事前アンケート
の実施

働き方トライアル
の実践

事後アンケート
で効果測定

2016: 未来の働き方トライアル

Trial 1

在宅で仕事をする

Work Anywhere

Trial 2

会議の無駄を減らす

Work Simply

Trial 3

決めた時間に帰る

Work Shorter

2016: 未来の働き方トライアル

「在宅勤務」トライアルの結果から

“在宅勤務でできる
仕事は限られる”

“在宅勤務によって、
業務に支障が出る”

“在宅勤務のほうが、
オフィスよりも
集中できる”

事前

事後

47.1% → 11.8%

事前

事後

32.4% → 2.9%

事前

事後

22.9% → 59.4%

2016: 未来の働き方トライアル

この春実施した在宅勤務
トライアルの様子と効果
をまとめた動画

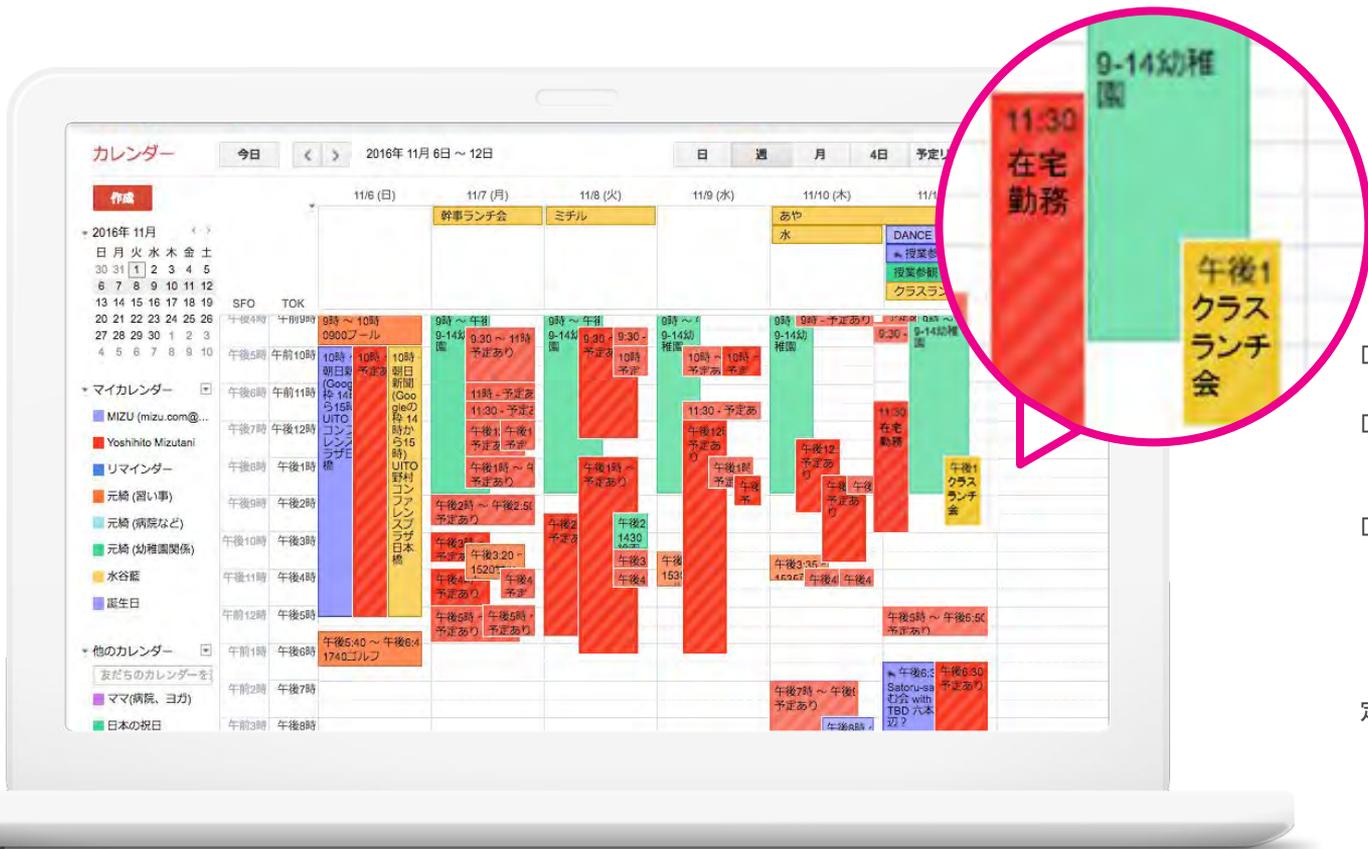
[https://www.youtube.com/
watch?v=SpCQLnEwoFY](https://www.youtube.com/watch?v=SpCQLnEwoFY)



では、LIFEはどうか？



テクノロジーの活用がLIFEについてどのような影響を与えているのかについての実態を把握する調査を実施。共働き夫婦の課題は「どうやってお互いの時間を効率的に使い、仕事と家事育児を両立していくか」。そこで今回はこの「時間」の課題についての影響を見るため、「スケジューラー」にフォーカス。



□調査時期 2016/10/22-10/23

□サンプル数
市場把握調査 N= 本調査 N=1,236

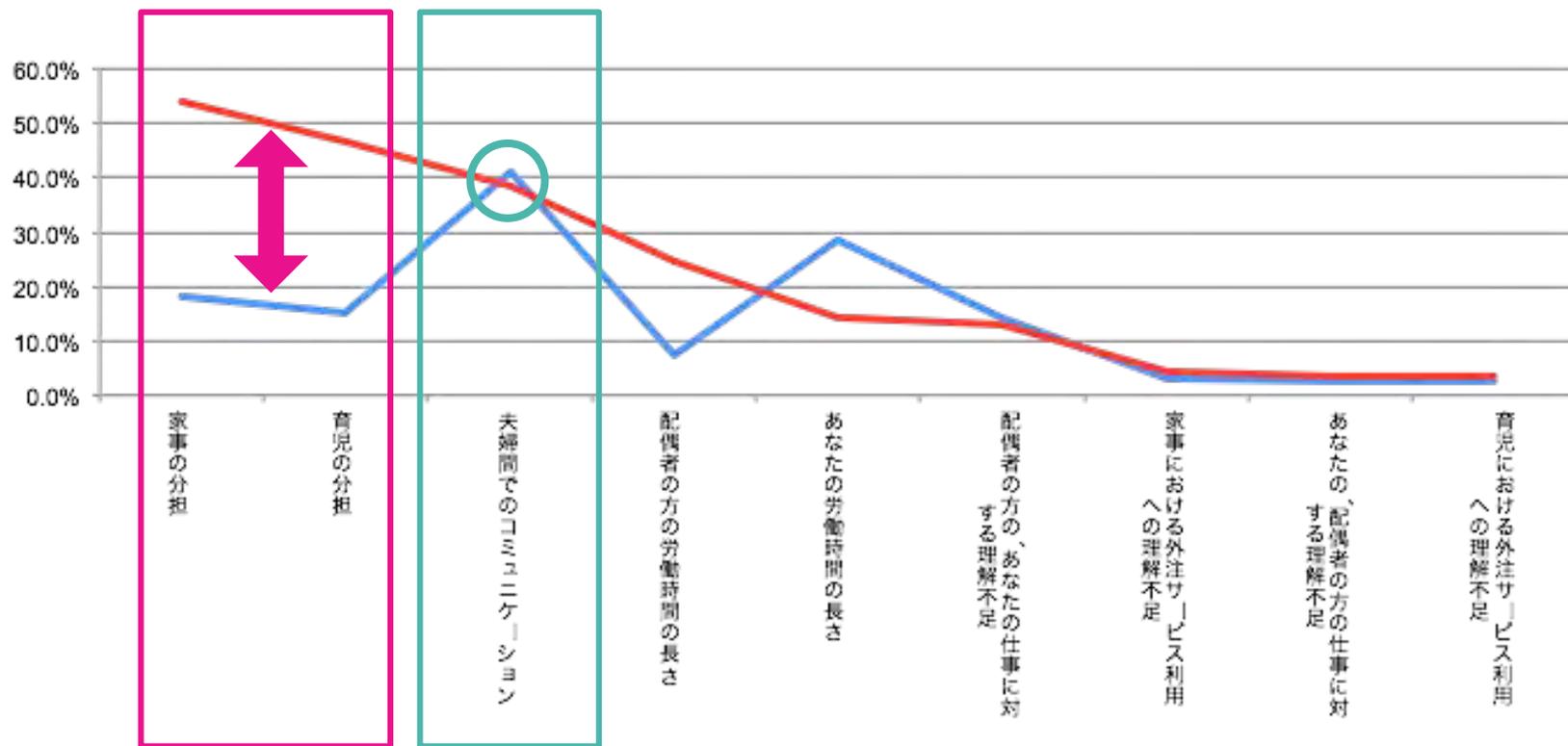
□対象者条件

- ・全国の20歳～49歳
- ・既婚子あり
- ・配偶者と同居
- ・夫婦共に就業

(総務省「労働力調査(詳細集計)」の定義と合わせた非農林業雇用者)

- ・長子年齢小学生以下
- ・本人、配偶者いずれもスマートフォンユーザー

1. 共働き夫婦が働き続ける上で感じるストレスのうち、女性トップは「家事と育児の分担」。一方、男性トップは「夫婦間でのコミュニケーション」。



■ 女性(N = 618) ■ 男性(N = 618)

2. 夫婦間でスケジューラーを使っている女性は、使っていない女性に比べて、家事と育児の分担に対するストレスが低い。

■ 夫婦間スケジューラー非利用女性(N = 309)

■ 夫婦間スケジューラー利用女性(N = 309)



「家事のストレス」



「育児のストレス」

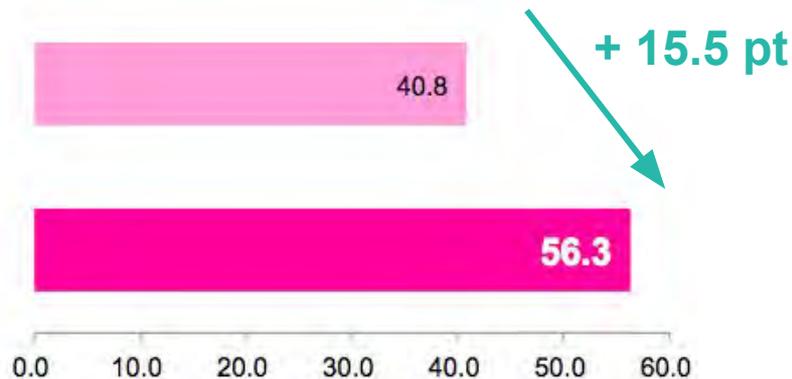
3. 夫婦間でスケジューラーを使っている女性は、使っていない女性に比べて、家事と育児に対する夫の関わりへの満足度が高い。

■ 夫婦間スケジューラー非利用女性(N = 309)



夫の家事の関わりに満足している

■ 夫婦間スケジューラー利用女性(N = 309)

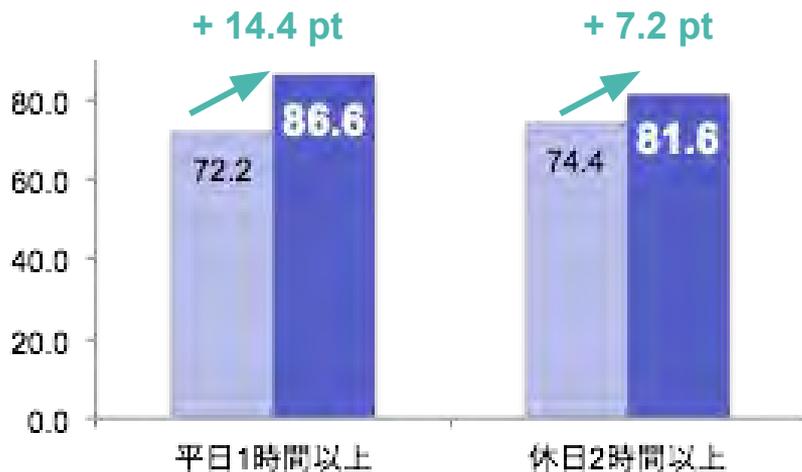


夫の育児の関わりに満足している

4. 夫婦間でスケジューラーを使っている男性は、使っていない男性に比べて、一日あたりで家事と育児に割く時間が多い。

■ 夫婦間スケジューラー非利用男性 (N = 309)

■ 夫婦間スケジューラー利用男性 (N = 309)



一日あたりの家事に割く時間

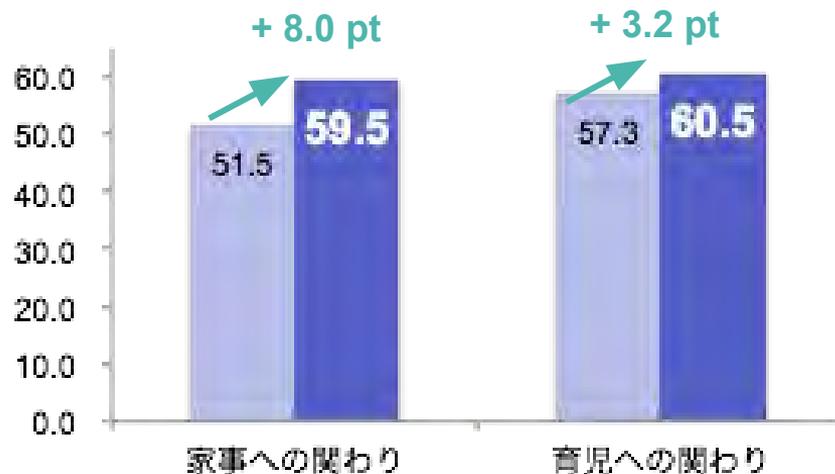


1日あたりの育児に割く時間

5. 夫婦間でスケジューラーを使っている男性は、使っていない男性に比べて、自身の家事・育児への関わりの満足度が高い。

■ 夫婦間スケジューラー非利用男性 (N = 309)

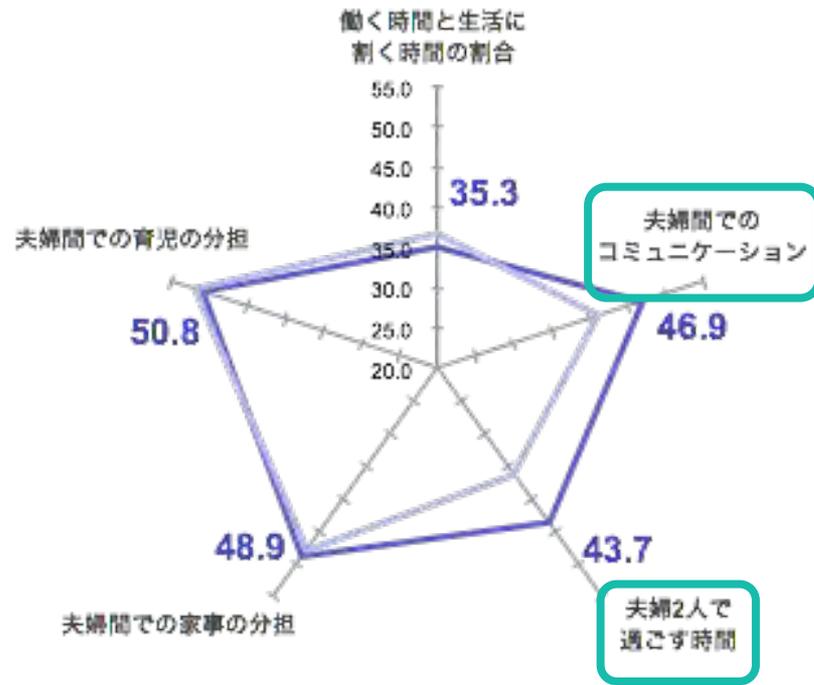
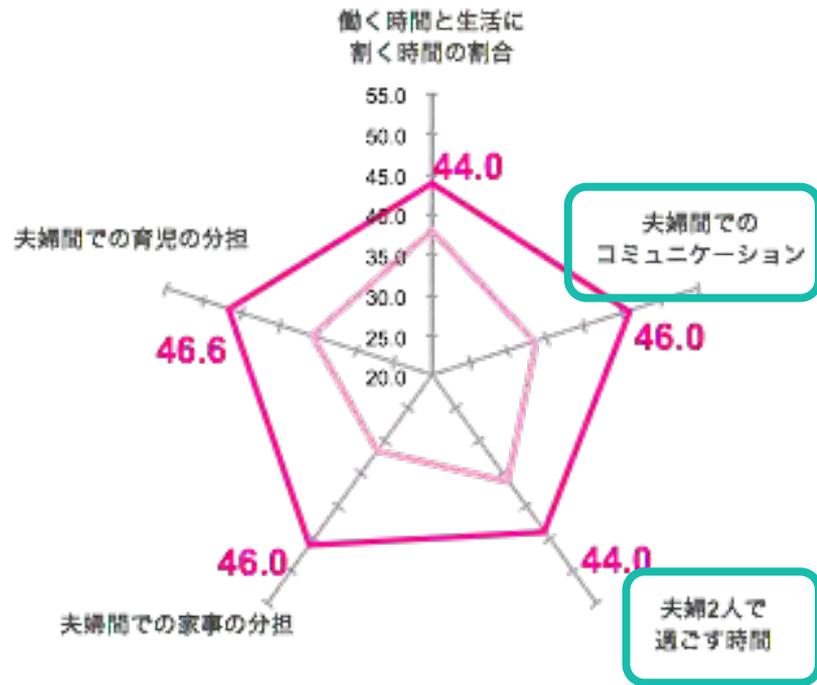
■ 夫婦間スケジューラー利用男性 (N = 309)



自身の家事・育児への関わりの満足度

6. 夫婦間でスケジューラーを使っている女性・男性ともに、「夫婦間でのコミュニケーション」「夫婦2人で過ごす時間」への満足度も高い

■ 夫婦間スケジューラー利用女性 ■ 夫婦間スケジューラー利用男性
■ 夫婦間スケジューラー非利用女性 ■ 夫婦間スケジューラー非利用男性 (各セル N=309)

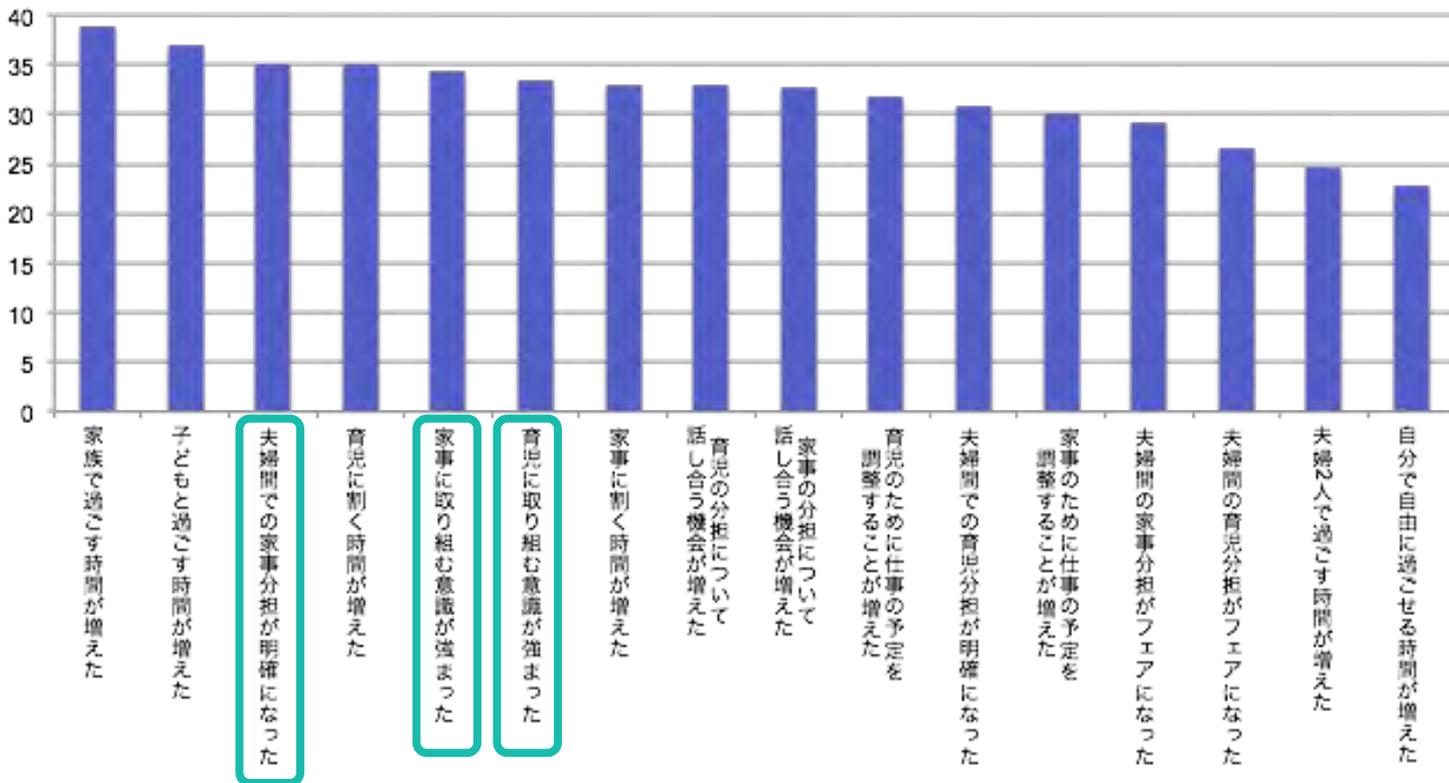


7. 夫婦間でスケジューラーを使っている女性・男性ともに、全体的な「幸福度」が高い



8. 夫婦間でスケジューラーを利用した男性は「家事・育児に割く時間」「家事・育児に取り組む意識」「家事・育児を分担する意識」などに変化が起こっている。

■ 夫婦間スケジューラー利用男性 (N = 309)



スケジューラー利用後の変化

テクノロジーを活用する5つのメリット

1. **更新性** いつでもお互いの最新の状況をアップデートできる
2. **閲覧性** いつでもどこでも最新の状況を確認することができる
3. **記録性** どちらがいつどんな家事や育児をしたか後から振り返ることができる
4. **柔軟性** それぞれの事情に合わせてカスタマイズすることができる
5. **発展性** ツールを併用して育児家事と仕事のバランスをとることなどもできる

テクノロジーを活用して男性の家事育児参画を促進するための提言

「未来の夫婦のカタチ トライアル」

- まずトライする
- 効果を検証する
- 成果を発表し広げていく

トライアルがもたらす効果について： 未来の働き方トライアル 広島県庁様の事例より

課題

恒常的な長時間労働の解消

取組

個々の業務の見える化

ツール

スケジューラー

一度トライを始めれば、現実の状況に合わせた創意工夫が始まる

スケジュール入カールール例

	6/1 (月)	6/2 (火)	6/3 (水)	6/4 (木)	6/5 (金)
			在宅勤務		出張
09:00	09:30～メールチェック・スク	09:30～メールチェック・スク	09:30～12:00 =在宅勤務= メールチェック・スケジュール確認 補助金申請対応 (公用携帯OK) 《3h30m》	09:30～メールチェック・スク	09:30～12:00 (移動) メールチェック・スケジュール確認
10:00	09:30～11:30 【会】システム開発協議 土木局 (西分室)	09:00～12:00 【がんばるタイム】【集】補助金申請対応 2月20日締切		10:00～12:00 【会】マイナンバー庁内協議 (本館301会議室)	
11:00					
12:00			12:00～14:00 (休憩)		12:00～17:00 =出張= 東京 【会】総務省説明会
13:00	13:00～17:00 補助金申請対応 2月20日締切	13:00～14:00 【会】来客対応		13:00～14:00 【協】予算執行見込み (協議前)	
14:00		14:30～18:00 【会】システム開発協議 健康福祉局 (西分室)	14:00～17:00 =在宅勤務= メールチェック・スケジュール確認 補助金申請対応 (公用携帯OK) 《3h00m》		
15:00					
16:00					
17:00	17:00～スケジュール確認★白	17:00～スケジュール確認	17:00～19:30 (休憩)	17:00～スケジュール確認	17:00～20:30 (移動) メールチェック・スケジュール確認
18:00	18:00～20:00 【P】				
19:00			19:30～20:45 =在宅勤務= 協議資料作成 《1h15m》		
20:00				20:00～22:00 【P】	

【協】：知事、局長、課長等との協議 【会】：庁内、庁外での会議、研修等

【集】：集中して処理したい事務、原則 1 日 2 時間以内とする 【P】：休暇、その他私的な行事

P ≡

プライベートを予定には
「P」と記入

【≡】

移動できない予定は
【】書きで記入



1日2時間の
「がんばるタイム」を設定

【入カールール】

1. 一週間単位でスケジュールを確認し、都度更新する
2. 退社時刻から逆算して、「何を」「いつ」実行するのかを決定する
3. 活動の種類によって印を決めて、一覧でわかりやすい表示にする
4. 「すぎま時間」を組込み会議時間のズレや予定外の業務に対応できるようにする。

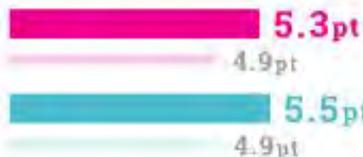
Women Will 未来の働き方 PLAYBOOKより
<https://www.womenwill.com/japan/playbook>

適切なサポートと共に取り組めば、成果はついてくる

取組後と取組前での仕事・生活の満足度の変化

- 配偶者・パートナーがいる (取組後)
- 子どもがいる (取組後)
- 配偶者・パートナーがいる (取組前)
- 子どもがいる (取組前)

労働時間の長さ



休暇の取得 (風土)



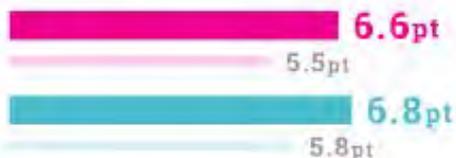
生産性や効率性



仕事のやりがい



IT ツールの活用度



平日の生活充実度



Women Will 未来の働き方 PLAYBOOKより
<https://www.womenwill.com/japan/playbook>

テクノロジーを活用して男性の家事育児参画を促進するための提言

「スマートな働き方」&「スマートな夫婦のカタチ」トライアル

・まずトライする

+ ICTリテラシーの底上げのためのトレーニングコンテンツ提供
(ハウツー動画、e-learning、パンフレットなど)

・効果を検証する

+ 夫婦間コミュニケーションなどのプロによるコンサルテーション

+ 政府・公的機関・産業団体によるICT活用の夫婦家事育児分担への効果検証実験

+ 政府・公的機関・産業団体による多企業共同実験と企業団体レベルでの参加呼びかけ

・成果を発表し広げていく

+ 「個人/企業の実感値/ワークライフバランス」への貢献を数値で示し拡散